

# 十和田市立 新渡戸記念館だより



新渡戸稲造

大阪府立清水谷高等学校1学年  
八木敏子さんの感想文(昭和6年当時)

新渡戸先生のお話を伺って

第一学年 八木敏子

修身の時又はその他の時に先生から物事を有難く思へと言われた事は幾度かあった。感謝と言ふ言葉は一つの公式の様に頭に入つてゐる。けれどもそれを実行する事は中々むづかしい。お母様が私の為を思つて注意して下さる事も有難く思はないで部屋を隅ついで泣いた事も度々あつた。何と言ふ親不孝だつたらう。其の悪い心を戒めて良心を蘇らして下さつたのは此の間伺つた新渡戸先生のお話だつた。先生は熱烈にしかも優しく面白く私達一千の生徒に説いて下さつた。少しの偉はる處も無く格別切つた先生の御姿温顔を拜して頭を下げる。其の御教を伺ふより外は無かつた。私に美しき心も目覚めた様に思へた。同時にそれからは御飯の前にも聲を出して頂きます御馳走と云ふ様になつた。又天下のすべての物を本當に有難く思ふ様な心も先生によつて植ゑつけられた。私は何物も直接間接私に幸福を祈つてゐる呉れろと言ふ事を始めて知つた。

## 清水谷女学校生徒が見た新渡戸稲造 —— 昭和6年の講演記念感想作品集から ——

この度、当館所蔵の大阪府立清水谷高等女学校生徒執筆の新渡戸稲造講演記念感想文について、執筆者の一人2学年生吉田シズさんのお嬢様・富田正子さん(大阪府)からお問い合わせをいただきました。そこで、清水谷女学校同窓会・(社)清友会様のご協力で、当時の講演について調査を行いました。国際人として教育者として多くの足跡を残した新渡戸稲造。70年前の生徒の目を通して、私たちも稲造その人に会ふ事ができるかもしれません。

### § 清水谷女学校での講演 §

大阪府立清水谷女学校は明治34年(1901)、大阪府第一高等女学校として開校しました。この学校では、多くの名士、学者を講演に呼んでおり、新渡戸稲造は昭和6年(1931)2月4日と8年(1933)6月17日の2回講演を行いました。当館に所蔵している講演記念感想作品は、内容から1回目・昭和6年の講演を聞いた後に書かれたものと思われる。記念作品は1学年から5学年まで各1名ずつの感想文と、当時17歳の生徒1名(秀子とのみ署名)の書道作品をそれぞれ軸装したものです。清水谷女学校史『清水谷百年史』によると、この時の講演は2時間半におよび、「真の学問は心を清くする事」、心を清くする法としては「人の短所を見ず長所を見る事」「恩ということを感じる事」とし、「山川の底のさざれも数ふべく見ゆるは水の澄めばなりけり」の和歌も引用しました。校名の「清水谷」に掛けてこのような話運びにしたと思われます。



◀ 記念書道作品。作者については調査中。

▶ 昭和初期の清水谷女学校生徒たち(『清水谷百年史』より)



◀ 3年と5年生の感想文。執筆者は3学年丸澤澄子さん、4学年藤原綾子さん、5学年後藤綾子さん。



## 新渡戸稲造講演を聞いて

新渡戸稲造に直接会った人は、対面した時自然と感じる人格の素晴らしさと、その影響力について語っていますが、感想文からもその不思議な感覚が伝わってきます。「大きな感激と異様な興奮を残してお話は終わった。その時の心持を何にも触れさせないでそっとそのままにして置きたい気持ちで一杯だった。そして時が経つにつれて今の心持が一刻一刻又元の黒いどばりに覆われて行くのではないだろうかという恐れに怖えていた。凡人の浅ましき！けれどけれど、決してこの貴い御話はこのまま埋もれてしまうものではない。後日必ず何かの大きな力となって私達の正しい道しるべとなるのだという様な力強い感じがした。」最年長の5学年・後藤綾子さんはそのように講演の印象を記しています。感想文執筆者の内2名の方は既に亡くなられ、他の方も高齢のため体調を崩されていたりご連絡が取れず、お話を伺うことはできませんでした。その中で清友会様よりのご紹介で生徒の1人長谷川秀子さんから講演後日談を伺うことができました。「稲造博士は大変ハンサムな方で、おませな感受性の強い時分ですので、講演の後もしばらく稲造博士についての噂が友達の間でも絶えず、大変良い思い出として覚えています」と懐かしそうに語られていました。



明治40年頃から高等女学校の国語読本に、新渡戸稲造の文章が紹介されています。



▲「女子 国文読本」巻九 (昭和5年修正四版/新渡戸稲造『修養』“継統”収録)

▲「再訂 高等女学校用 国語読本」巻七(明治44年8版/新渡戸稲造“英文武士道論を上る書”収録)巻八(明治43年7版/新渡戸稲造著『随想録』“感恩”収録)

## 新渡戸先生を御迎えして

清水谷高等女学校第二学年 吉田シズ

新渡戸先生、それは私にとってあまりにかけ離れた先生で有った。それが計らずも親しく御目に懸って御話をうかがい得た事は、私の小さな世界をより広め、より深いものにする大きな力となったので有る。今は霧にさえざられた幻では無くて現実性を持った「私達の新渡戸先生」で有る。到底近づき得ぬ尊いものに偶然と言う運命に支配されて此処にしっかりと結ばれた様な感じがする。先生に対する私の抱いて居た想像はことごとく裏切られてしまった。それは世に新渡戸博士とも謳われる方で有るから、どんなに厳めしい御顔の難しい御話をなさる方で有ろうと思つて居たのに、本当に優しい良い「小父様」で有った事である。珠の様にすきとおった先生の明朗な御人格に接した時、自ら我が心の澄むのを覚える。先生のお話は極く平易でしかも痛いまでの鋭さが有った。けれど一寸も固苦しさの無いユーモアたっぷりな御話振りである。「学問。それは何も鼻に掛る為の物では無い。心の塵を掃き清める為の物で有る。又、鼻の先にブラ下げる社会的名誉、そんな物が人格を価値づける何物でも無い。」そうだ。全くそうだ。私もすっかり上気して心の中で大きく叫んだ。又自身をかえり見て恥かしくて仕方が無かったのは、御食事を戴く時の感謝で有る。其の中に真心から有難いと思つて御辞儀をする人が果して幾人有るだろうか。一粒の御米にも天の恵と人々の苦心が籠められて居る物を、嫌いだとか不味いとか不平を並べるなんて何と勿体無い事の有るうか。私は自分を反省して今、はっきりとあさましい我が姿を見た。婦とは女が箒で掃除をして居る意だそうだが、箒で何を掃く？心の塵を掃き捨て、谷の清いせせらぎの様な心を作る為では無いか。私達は第二の国民たる責任を双肩に荷つて、明るい愛と純な心を持って朗らかな黎明を目指して進みたいものである。

※吉田シズさんは、清水谷女学校を卒業後医学の道に進み、内科・小児科開業医として大阪で50数年間活躍され、今もご健在です。

[読み易くするため感想文などは現代かな遣いに変更しました]

## トビックス

### 太素塚でバードウォッチング

現在太素塚にはツグミとアトリが来ています。ツグミは単独で飛びまわりますが、アトリは20~30羽の群れを作って飛んで来ます。その他に、キツキの仲間のアカゲラもケヤキの枯れ枝を盛んにつつき、シジュウカラとエナガも姿を見せています。



アトリ



ツグミ

(保育社「原色日本鳥類図鑑」より)



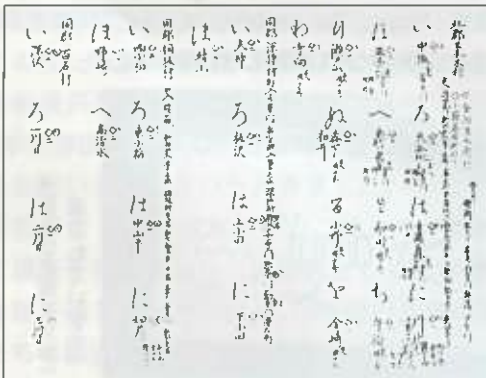
裏打ち資料紹介

三本木・深持・相坂・百石 新田地名一覧表

当館では平成7年(1995)から、補強の必要な絵図面などについて裏打ちを行っています。今年度裏打ちの慶応元年検地関係資料「三本木村・深持村・相坂村・百石村新田地名一覧表」をご紹介します。

新田地名一覧表

これは、三本木原開拓開始から10年目、慶応元年(1865)に行なわれた新田検地時に作成されたものです。三本木村・深持村・相坂村・百石村内の各新田の地区名と、それぞれにふりあてられた「いろは」印がしるされています。さらに三本木村・深持村・相坂村の村役人(肝入・老名)ならびに新田の役人(肝入・老名)、新町・稲生町の役人(検断・宿老)、三本木村内新田各地区の検地責任者(古人・介添)の名前も記されています。検地で作成する書類(番附帳・小絵図)の提出状況について地区ごとに朱書きのチェックマークがあり、検地の事務処理の便宜上作成したものと思われます。



三本木村・深持村・相坂村・百石村 新田地名一覧表 (慶応元年)

消えた地名・初井

三本木村内に「初井」という地名が、ぬ印森下とともに併記されています。これは新渡戸十次郎によって都市計画が進められた万延元年(1860)頃使われた地名ですが、明治の初めには既に使われなくなっています。そのため、初井がどのあたりを指すのか、現在分かっていませんが、この資料から森下地区の一部であることが明らかになりました。初井には労役を課せられた罪人が寝泊りする小屋があったことが、開拓の事務所で書いていた日誌から分かっていますので、そこから、初井は森下の絵図面に夫役屋と書かれているあたり(稲生町7丁目東裏の北側)と思われます。後にこの場所は夫役屋の大きい門が目印となり「大門」と呼ばれるようになっていきます。

太素塚の無償貸借契約を更新

太素塚の敷地は、昭和28年(1953)1月から十和田市が新渡戸家より50年間無償で借用していました。その期限が切れましたので、これまでと同じように無償で10年間借用の契約をしました。その後は双方異議が無い場合、継続することとなりました。



新渡戸三代の銅像が立つ太素塚

博物館実習レポート

—10日間の実習を終えて—

今回十和田市立新渡戸記念館で実習させていただき、最も感じたことは、地域に根ざした記念館だな、ということ。朝には近所の方が雪かきを手伝ってくれるなど、いろいろな人が遊びに訪れるこの記念館は、21世紀が目指す理想の博物館に近いのではないかと感じました。また、博物館というと資料を効果的に展示することと資料整理がメインかと思っていたのに、お客様のためにどれだけことができるか、どれだけ利用しやすい館にするか、という接客業に近いことに少々驚きました。また、館長の言う、学芸員は雑芸員との言葉どおり、学芸員は資料管理などの業務のほか、事務的なこともこなしており、目指すべき学芸員像を垣間見たように感じました。最後に、記念館の皆さん、実習を受け入れていただきありがとうございました。

平成14年度春季の実習では、期間中に教育普及の観点から常設展示4箇所についての展示改善を行っていただきました。

北里大学獣医畜産学部4年生 本谷 匠



実習を行う本谷さん(左)



### 関連情報

#### ◆岩手県立博物館大矢邦宜先生来館

1月31日、岩手県立博物館首席専門学芸員兼学芸第一課長・大矢邦宜先生が、千葉氏顕彰会鈴木佐氏（財・ちば国際コンベンションビューロー課長代理）とともに来館しました。当館館長の案内で、法身国師に関する調査に十和田市法蓮寺を訪問されました。（新渡戸家のルーツは千葉氏で、館長は千葉氏顕彰会の顧問を務めています。）



▲岩手県立博物館大矢先生（左）と千葉氏顕彰会鈴木佐氏

#### ◆太素塚隣接地で不審火

2月17日午後9時頃、太素塚境内裏手でボヤ騒ぎがありました。火はすぐに消しとめられ、周辺への延焼などはありませんでしたが、火災発生現場が道路をはさんで太素塚のすぐ裏でしたので、大変驚きました。不審火のため現在警察で捜査中ですが、燃えやすいものを周囲に置かないなど、今後一層の防火に努めていきたいと思えます。

#### ◆書道美術に当館所蔵新渡戸稲造ドイツ語扁額紹介

日本書道美術院発行『書道美術』2002年12月号～2003年1月号に中安宏規氏によるエッセイ“小さな旅⑩新渡戸稲造”（上・下）で当館所蔵稲造ドイツ語の書「Eile nicht, Weile nicht.」（急ぐことなかれ、とどまることなかれ）とともに、祖父、父が開削した稲生川、太素塚境内にある新渡戸稲造銅像、生誕の地盛岡の記念碑などが写真で紹介されました。



▲新渡戸稲造書「Eile nicht, Weile nicht.」ゲーテの詩の一節を書いたもの。

#### ◆元朝参り

2002年12月31日深夜から2003年1月1日早朝までの元朝参りは好天に恵まれ、多くの参拝者の方がたが太素塚のたきびを前に甘酒や御神酒を楽しんでいました。



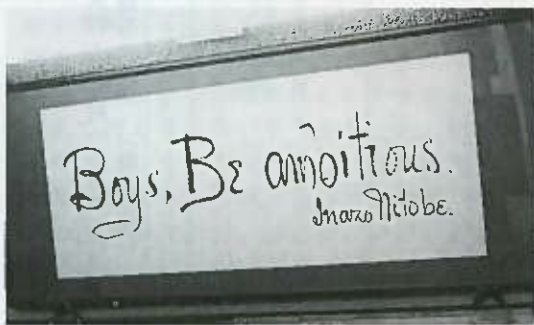
▲記念館前で元旦を迎える参拝者のみなさん

#### ◆八戸新幹線「はやて」利用団体観光客多数来館

昨年12月開通の八戸新幹線「はやて」を利用した団体観光ツアーが、当館に多数来館しています。JRびゅうばす、びゅうプラザによるツアー観光客は、2月末までで、約1000人を数えています。

### 活動報告

#### ◆新渡戸稲造書「Boys, Be ambitious.」レプリカを作成し、記念館エントランス正面に展示しました。



▲原本は北海道大学に所蔵されています。

#### ◆館長講演会

1月31日平成14年度二北地区高等学校生活指導部会研修会で「新渡戸三代と三本木原開拓」の演題で館長が講演を行いました。

#### ◆博物館実習生受け入れ

2月25日～3月7日に北里大学獣医畜産学部四年生本谷匠さんが学芸員資格取得にかかわる実習を行いました。

（詳細3面）

#### ＜編集後記＞

稲造博士の講演が当時の女学校生に与えた影響の大きさに驚くばかりでした。15歳前後と思われる生徒の大人びた思考力と国語力の確かさに思いをいたす時、現代の若い世代の一層の努力が求められるように感じました。

発行 太素顕彰会  
十和田市立新渡戸記念館  
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
TEL (FAX) 0176-23-4430  
E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp  
http://www.towada.or.jp/nitobe/  
印刷 有限会社 岩間印刷所